

Day

2

タイトル

4. アフリカの廃棄物管理改善に資する日本の技術(本邦企業の取り組み事例)

発表者

株式会社ダイキアクシス 東日本特需事業本部 営業課 片桐拓哉

発表者から以下のとおり、説明があった。

ダイキアクシスは、水処理分野で60年以上の経験を有している。日本の分散型排水処理システムである「浄化槽」は当社の主力製品であり、日本とインドネシアに工場を構え、2018年にはさらに2つの新工場を中国とインドで建設する。当社はアフリカ市場での事業拡大をめざし、ケニアに公式の販売代理店を設立した。

浄化槽は屋外分散型廃水処理システムとして日本で開発され、1960年代から継続的に改善されている。廃水は嫌気性と好気性システムの組み合わせによって効率的に処理されるため、ランニングコストは低い。

要約

浄化槽は流入水量によりいくつかのタイプがあり、標準タイプは1m³/日から100m³/日である。処理排水の水質はBODで20mg / Lよりも低く、BODの90%が除去される。

ケニアではアパートに処理能力60m³/日の浄化槽を設置し、正常に機能している。当社はケニアでの製品製造を計画しており、浄化槽の汚泥処理場建設も計画している。当社のシステムは、アフリカにおける家庭廃水問題の改善に貢献できる。

発表後の質疑応答においては、伝統的なものと比べた浄化槽のコスト、ケニアでの事業スケジュール、オーバーロードの問題の有無、オーバーロードへの対処法、ISO認証を受けているか、などの質問が為された。しかしながら、回答については質問が非常に具体的であったため、モデレーターは後のコーヒーブレイクで情報交換することを薦めた。